

平成30年度 調布市立神代中学校「学校いじめ防止対策基本方針」

○いじめ防止に関する法令

- いじめ防止対策推進法
- 調布市子ども条例
- 調布市教育委員会基本方針
- 調布市いじめ撲滅の手引き 等

目指す生徒像

- 自ら学び、考える人になろう。
- 礼節を重んじ、思いやりある人になろう。
- 骨身惜しまず、働く人になろう。
- 体を鍛え、健康な人になろう。

○目標策定の方針

生徒の人間関係の変化やいじめの発生を認知するためには、生徒と教職員のコミュニケーションはもちろんのこと教職員間の情報の共有と組織としての動きが必要不可欠である。毎日の些細な声掛け、コミュニケーションを通して生徒の体と心の健康を守ることで、保護者が安心して学校に通わせられる学校を目指し学校目標を策定した。

いじめ防止等に関する学校の目標

- 「いじめを許さない」という強い意識を、生徒・教職員全員でもつ。
- 未然防止のために生徒情報を常に共有する。
- 早期発見に努め、素早く組織対応を行う。

○教職員の研修

- 生徒理解研修(年2回)
- OJTによる研修
- 管理職講話
- 人権教育プログラム、人権ニュースなどを活用し、年3回の研修を行う。

いじめの未然防止・早期発見のために

未然防止

- 学校いじめ防止対策委員会の設置(校長、副校長、生活指導主任、各学年主任、養護教諭、スクールカウンセラー)
- 生活指導部会において各学年の生徒情報を詳細に把握する。
- 外部機関等を活用し、情報モラル教育の推進。
- 教職員の人権意識の向上に努める。
- 人権週間等で生徒会中心の取り組みを充実する。あいさつ運動を含む。

早期発見

- 生活アンケートをもとに生徒の状況把握を行う。
- 「いじめ相談窓口」の生活指導主任を学校ホームページに掲載し、保護者に周知する。
- スクールカウンセラーとの全員面接(1学年)

○スクールカウンセラーとの連携

- 年度初めの生徒観察での情報交換
- 1年生全員面接実施
- 生活指導部会に参加してもらい情報共有
- 保護者にカウンセラーの存在について理解してもらう

○保護者・地域との連携

- 保護者会での情報交換
- セーフティ教室
- 民生委員との連携
- 小中連携の情報交換
- 地域行事を通じた情報交換

いじめの対応

生活指導主任会報告内容「B事案」の場合(いじめを認知し、学校で組織的に対応する場合)

<p>① 実態把握の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> 事実確認・状況把握(担任・学年) 学年会、生活指導部会、職員会議(緊急性があれば即座に行う) 組織、役割の決定 <p>*いじめの発見者や、相談を受けた教員が一人で抱え込むことがないようにする。</p>	<p>② 指導・支援の基本姿勢</p> <p>いじめの状況や当事者の状況によって、誰が指導の中心になるべきかが異なることが多い。いじめを認知したら、即座にいじめ対策委員会に報告し組織として対応をはかる。</p>	<p>③ <被害生徒の支援></p> <ul style="list-style-type: none"> 事実を確認し、今後いじめをやめさせ、被害生徒を必ず守る約束をする。 心のケアを養護教諭、学校カウンセラーと連携して行う。 <加害生徒の指導> いじめの行為について認めさせ、責任を自覚させる。 いじめの背景に目を向け、人格の発達に向けた指導を行う。
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

*重大事態への対処

- いじめが「重大な事態」と判断された場合の手順
- ①教育委員会への報告をし、教育委員会が設置する組織との連携・協力をする。
- ②被害の児童・生徒への緊急避難措置の検討、実施
- ③加害の児童・生徒への懲戒や出席停止の検討
- ④警察や児相等との連携
- ⑤緊急保護者会の開催

生活指導主任会報告内容「C事案」の場合(教育委員会や関係諸機関と連携して対応する場合)

●関係諸機関との連携

連携機関⇒(指導室、教育相談所、子ども家庭支援センターすこやか、多摩児童相談所、民生委員、保護司、調布警察署等)

いじめ未然防止、いじめを許さない気風の確立のために

- 【道徳】・・・他への思いやり、相互の個性尊重、差別の無い社会、自他の権利尊重
- 【特別活動等】・・・校長講話、生徒会呼びかけ、部活動の推奨、いじめ防止月間への取り組み、いじめを絶対に許さない学級経営
- 【学校行事】・・・体育祭、合唱祭を通じた縦割り活動、宿泊行事を通じた集団生活訓練
- 【年間計画】
 - 担任との個人面談 7~8月 12月実施
 - 各学級でのいじめ防止への取り組み 4・9・1月実施
 - 全校生徒へのアンケート 毎月実施
 - スクールカウンセラーとの集団面接 4月~実施
 - 生徒会からいじめ防止への呼びかけ ふれあい月間(年3回)